

INDEX 2 IAU International Conference/ダイバーシティ・ウィーク 3 新留学プログラム開始/学生向けアプリ3月リリース 4 課外活動団体組織 新代表者決定

## 2024年度上智地球市民講座開講報告

2025年度春学期の  
受講生募集は2月3日から

2024年度に上智大学Sophia Future Design Platform (SDFP) 推進室は新たな公開講座『上智地球市民講座』を開講し、今年度開講の全ての講座が終了した。春学期・秋学期合わせて10代～80代の延べ822人の受講があった。

本講座は「社会変革の時代に、自らの『地球市民』としての生き方を、前向きかつイノベティブにデザインするための学び～上智で出会う一歩先の自分～」がコンセプト。①SDGsや気候変動、エネルギー、難民などに向き合う「社会課題」、②AI、バイオ、ビッグデータなど先端のイノベーションを探索する「技術革新」、③働き方、生き方、哲学など大きな変貌を遂げる社会を考察する「社会変革」という3本柱を学びのテーマに据えている。語学やスキルの取得に主眼が置かれがちな従来の公開講座とは異なる新たな教育プログラムとして、今年度は春学期に19講座、秋学期に17講座を開講した。講義回数は4回で、対面型・オンライン型・対面とオンライン併用型の3パターンで開講することにより、全国のみならず海外在住の方も受講できるようにした。受講満足度は96.1%であった。

受講生からは「高校では学ぶことができない専門的なことを学ぶことができた。また普段は関わること



総合人間科学部教育学科相澤真一教授による講義「日本社会の格差と教育」の様子



とのない年齢の方や出身の方、それぞれ違った経験をしてきた方とのグループワークを通して新たな意見や価値観を知ることができ、本当に貴重な経験となりました(高校生)、「書籍などからは学べない具体的な内容に触れることができ、とても充実した時間を過ごすことができた。興味深いエピソードが多く、講座に参加して良かったです(30代社会人)」、「今まで深く気に留めていなかった事象や歴史にも大きな意味があり、そこに関わってきた人や物が多大な影響を与えていたことに改めて気付かされた。知らない事を知る、違った視点から物事を見るという、当たり前なのに日常生活で疎かにしてきたことを考える大変良い機会となり、毎回とても興味深く参加させていただきました(50代社会人)」、といった感想が寄せられた。

2025年度は新たな講師・講義テーマで講座数を増やし、春学期は28講座を開講予定。今後も多様な世代、立場、バックグラウンドの受講生が共に学び、新たな価値を創出する機会として「多層的な学びの場」を提供していく。2025年度春学期受講生募集は、2月3日(月)から上智地球市民講座Webサイトにて受付開始予定。



2025年度春学期開講予定の講座概要(※各講師肩書は2025年1月現在)

No	テーマ	担当講師	講座名
1	神学部神学科 特別契約教授 小山 英之	戦争システムから平和システムへ ーキリスト教平和学/パレスチナ紛争・ 北アイルランド紛争の事例から考えるー	
2	総合人間科学部社会学科 教授 芳賀 学	時事トピックから現代社会を読み解く ーお祭りや聖地巡礼(観光)をめぐる諸問題ー	
3	外国語学部イスパニア語学科 教授 谷 洋之	入門・ラテンアメリカの経済と社会 ー貧困・格差問題を通じて考える世の中の 仕組みー	
4	外国語学部ポルトガル語学科 教授 子安 昭子	ブラジルから見た世界 ー存在感が増すグローバル・サウスを考えるー	
5	社会課題 総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授 前嶋 和弘	アメリカと世界、そして日本	
6	総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授 丸井 雅子	ローカルとグローバルからみる文化遺産 ー上智大学で学ぶ世界遺産アンコールー	
7	グローバル教育センター 教授 東 大作	分断の時代の和平調停と平和構築 ーガザ、ウクライナ戦争、南スーダン、 アフガニスタンー	
8	基盤教育センター 特任助教 諺井 知	異常気象も見据えた防災のあり方 ー地域コミュニティ編ー	
9	文学部新聞学科 特別契約教授 水島 宏明	SNS時代のテレビ最前線 ーテレビが直面する課題ー	
10	経済学部経済学科 准教授 倉田 正充	AIの社会への貢献と課題	
11	理工学部物質生命理工学科 教授 堀越 智	電子レンジの魔法 ーマイクロ波の科学とその応用ー	
12	理工学部機能創理工学学科 教授 江馬 一弘	我々の世界を構成しているもの ー光と電子の旅ー	
13	理工学部機能創理工学学科 教授 平野 哲文	社会の役に立たない基礎科学は本当に必要 か？	
14	理工学部情報理工学科 教授 萬代 雅希	デジタル技術と社会的課題のつながりを理 解する	
15	基盤教育センター 非常勤講師 鎌田 浩史	日常生活とデータサイエンス	
16	名誉教授 高祖 敏明	潜伏キリシタンから「かくれキリシタン」へ ー長崎・天草のユネスコ世界文化遺産から 探るー	
17	名誉教授 小林 順治	教養としての組織論	
18	神学部神学科 教授 武田 なほみ	聖書にみる人生の四季と希望 ー「希望の巡礼者」として歩むー	
19	文学部史学科 准教授 森田 直子	感情を歴史する ー感情史研究の現代的意義と可能性ー	
20	総合人間科学部心理学 教授 日高 聡太	心を情報処理機構として捉える ー認知心理学への招待ー	
21	総合人間科学部社会学科 特別契約教授 藤村 正之	少子高齢社会、家族と人生の来し方・行く末 ー大家族からおひとりさまへー	
22	総合人間科学部社会福祉学科 准教授 平野 寛弥	社会を変えるための社会政策入門	
23	社会変革 経済学部経済学科 教授 川西 諭	行動経済学者と考えるこれからの資本主義 社会での働き方・生き方	
24	総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授 田中 雅子	「学ぶ」から「動く」へ ー国際人権規範を使って、自分の暮らしを とらえなおしてみようー	
25	総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授 丸山 英樹	自分と他者をサステナブルにする 生涯学習 ー2050年の教育と社会を再想像するー	
26	国際教養学部国際教養学科 教授 ユー・アンジェラ	国際教養と生き方(1) ーなぜ名作を観る・読むのかー	
27	基盤教育センター 特任助教 梅田 孝太	サステナビリティ時代の哲学 ーわたしたちの価値観の持続可能性を問い 直すー	
28	SDFP推進室 University Education Administrator (UEA) 山崎 瑛莉	アフリカの智でつなぐ世界 ー食・布・学びの展開からー	

## 2025年上智学院年頭式典

## 未来への決意表明—教育・研究で新たな挑戦へ

1月6日、2025年の上智学院年頭式典が対面とオンラインで開催され、教職員約730人が参加した。

サリ・アガスティン理事長は新年の挨拶で、学院関係者への感謝を述べるとともに、昨年の災害や世界各地の紛争に触れ、「平和の重要性とその尊さを改めて認識した」と語った。

2025年はカトリック教会の「聖年」(Jubilee 2025)にあたり、テーマは「希望の巡礼者たち」。アガスティン理事長は「困難な時代において、全ての人々に希望を届けることが重要」と述べ、教育精神の実践をさらに深める必要性を訴えた。



上智学院が果たすべき役割について説くアガスティン理事長

また、2030年度を見据えた中長期計画「GL3.0」に触れ、教育・研究・社会貢献の各分野で新たな挑戦を推進する方針を再確認した。

終わりに、「上智学院が果たすべき役割は今まで以上に大きく、重要なものとなっている」と述べ、教職員一人ひとりが主体的に取り組むことの重要性を強調。「勇気を持って行動すること」を求め、学院全体で新たな挑戦に立ち向かう決意を改めて語った。

続いて登壇した曄道佳明学長は、社会の急速な変化と競争の激化に直面する中で、上智大学が果たすべき役割を再認識し、未来への挑戦を続ける重要性を強調した。また、「上智大学の上智大学たる所以」を問い直し、カトリック大学としての使命とイエズス会の教育精神「For Others, With Others」を再確認。人間の尊厳や社会正義、平和といった普遍的価値を追求する姿勢が、上智大学のブランドを支えてきたと述べた。

教育面では、学術的な深い思考力の養成とともに、社会で活躍するための資質を育む必要性を指摘。研究面では、「人間の尊厳」や「人間の安全保障」といったテーマでの拠点形成を目指し、国際的な研究連携を強化する意向を表明した。

さらに、曄道学長は4月から新学長に就任する総合人間科学部教育学科の

杉村美紀教授を紹介。杉村教授は「2025年は上智にとって大きな節目の年。皆様のお力添えのもと学長を務めていきたい」と、次期学長としての抱負を述べた。

式典は教職員有志の伴奏による校歌斉唱で閉会した。また、夕方には学生食堂で賀詞交歓会が行われ、教職員が親睦を深めた。

東京都「大学発スタートアップ創出支援事業」に採択  
大学の多様な知をスタートアップに活用

11月12日、東京都による公募事業「大学発スタートアップ創出支援事業」に本学の企画が採択された。この事業は、東京都の支援を受けて、新事業創出や起業・新事業創出を促進する学内の体制整備を行うもので、令和6年度は本学を含め、9大学が採択された。

本学では、誰一人取り残されない持続可能な未来を実現する「包摂のイノベーション」という観点から、大学の多様な知をスタートアップに活用する取り組みに着手する。

具体的には、スタートアップ創出のための専門人材の配置や海外大学等の

ネットワークを活用した体制の構築を進め、東京都の多様性社会が抱える課題の解決に向けた提案や、少子高齢化に伴う課題を抱えた地域の活性化、更には共通の課題を抱える海外を含むその他の地域の課題解決に貢献し、共生、共創、共働のためのビジネス創出を目指す。

多様な分野の研究者が「か所に集う都心のワンキャンパスを持つ強みと、豊富な海外ネットワークを生かし、グローバルな視野に基づく総合知で社会課題解決に取り組むスタートアップエコシステムの構築に挑む。